

事例紹介「学部・学年を超えた 参加型ディスカッションアクティビティ」

濱 田 紗 月（関西学院大学 総合政策学部 3 年生）

1. はじめに

「学部・学年を超えた参加型ディスカッションアクティビティ」の事例として、With café プロジェクトを紹介します。発表は、総合政策学部 3 年生濱田紗月と三浦彩花で行います。よろしくお願いいたします。この With café プロジェクトは 1 つのミッションを掲げて活動をしています。それは学生同士や、学生と社会人がつながって、知識のインプット、アウトプットを通じて新たな学びの場を提供するということです。

2. With café 設立の経緯（三浦彩花さん（総合政策学部 3 年生））

まず、With café の設立の一番のきっかけは、大学でグループワークに重点を置いた参加型の授業を受講したことです。あるテーマについて、授業の宿題でグループのメンバーそれぞれで調べることになりました。みんなでそれぞれが調べたものを共有した時に、同じ宿題にも関わらず、自分では気づかなかったことを相手が気づかせてくれる機会があり、またその気づきが、自分にとって新しいものであったり、大きな発見だったことがきっかけでした。これまでは学校で学ぶということに対して、面倒くさいし、努力しなければならないという、とてもネガティブなイメージがありましたが、その授業を受けてとても楽しいと思ったのと同時に、もっとたくさんの学生、私のいる神戸三田キャンパスであれば、理工学部と総合政策学部の 2 学部があるので、文系と理系を融合したらもっとおもしろいことになるという思いを持ちました。そのタイミングでアカデミックコモンズが建設されるという話を聞いたので、「出会い・気づき」フィールドのプロジェクトとして、事務室の方に提案したら、ぜひ活動してほしいという言葉を頂戴したので、With café を設立しました。

3. With café における学部・学年を超えた参加型アクティビティの事例

まず、4 月 23 日に実施した第 2 回の With café プロジェクトについて報告します。テーマは「大学生とは？」でした。4 月なので、新入生をターゲットにして、新入生に 2 年生、3 年生、4 年生と触れ合ってもらって、大学生とはどういうものか、大学生活とはどういうことなのかというのに気づいてもらうように、このテーマにしました。この回では、理工学部や総合政策学部の学生や教職員の方など、13 人に参加をいただきました。1 年生の参加者からは、「新入生として、大学生のビジョンが見えた」などの感想をもらいました。

次に、5 月 29 日に行われた第 3 回 With café では、「学生と社会人の違いって？」をテーマに

揭げました。本日の講演にもご出席いただいております総合政策学部の小池先生をはじめ、教職員の方々、あと社会で働いているベンチャー企業の社員の方など21名の参加がありました。ここでは、「学生が今まで3年間もしくは4年間しか描けなかった自分のビジョンが、10年後、20年後の視野まで広がった」や「もっともっと現場で活躍している社会人に会いたい」などの感想を頂戴しました。授業では、なかなか社会人の方と触れ合う機会がありませんが、この With café プロジェクトを通して、社会人と触れ合える機会を提供できたことは、とても有意義であったと思います。

最後に、7月10日に行った第4回 With café ですが、テーマを「理想の大学って？」に設定しました。この回には、23人の方が参加してくださいましたが、今回は、関西学院大学の西宮上ヶ原キャンパスの学生や、イギリスから関西学院大学に留学している大学生の方などにも参加してもらいました。神戸三田キャンパスにいる学生と他のキャンパスや他大学の学生とどう違うのか、関西学院大学や神戸三田キャンパスの良いところは、何かというものを発見してもらうことを目的としました。「自分の学生生活や学生団体の活動などをみんなに話せる機会ができたので、とてもよかった」などの感想がありました。

お気づきになった方がいるとは思いますが、第2回が13人、第3回が21人、第4回が23人と徐々に人数が増えています。実は、リピーターの方は5人ほどで、その方々以外は、初めての参加者です。これは、私たちスタッフが、テーマにあった人や興味深い話をしてくれる人達たちに、個人的に連絡をするなど、色々な方に参加してもらえよう環境づくりを心がけているようにしているからです。そして今後ですが、神戸三田キャンパスにはさまざまな学生団体があります。そこの団体の方々と With café がコラボをして、もっと色々な人たちに参加してもらい、新しいものを提供したいと考えています。10月中旬に第5回 With café を開催したいと思っていますので、この講演に出席されている方々にも、来て頂きたいと思っています。ありがとうございました。